

令和6年第15回玉野市教育委員会 会議録

I 期 日

令和6年11月6日（水）

II 会議時間

開会時間：13時30分

閉会時間：17時00分

III 出席委員

教育長 多田 一也

教育長職務代理者 二宮 崇

委員 三宅 英次

委員 横山 純子

委員 小野 文子

IV 欠席委員

V 説明のため出席した職員

教育次長 小崎 隆

教育総務課長 琵琶 学

就学前教育課長 片山 琢巳

学校教育課長 的場 佳代

社会教育課長 寶藏 光辰

（書記）清山 智保

VI 会議内容

1 開 会

2 前回会議録の承認

（1）令和6年第14回教育委員会会議（令和6年10月10日）の議決事項等について

教育長の報告：なし

議 事：なし

協 議：「玉野の教育」について

報 告：なし

（承認）

3 教育長の報告

(多田教育長)

先日、教員給与の特別法（給特法）をなくし、教員に残業手当を支給するような報道があり、現場の先生方の混乱が生じていたが、文科省は、「文部科学省内で、教職調整額を廃止して残業代を支給することは、全く検討をしていない。文部科学省では、中央教育審議会の答申に基づき、教職調整額の引上げや定数改善、支援スタッフの拡充などについて概算要求しているところであり、報道に惑わされず、現場では働き方改革や業務改善に努めてもらいたい。」という見解である。

4 議 事 なし

5 協 議

(1) 玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（修正案）について

非公開事項のため、会議録は公表しない。

6 報 告

(1) 玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）にかかる地域説明会について

(教育総務課長)

10月7日の八浜中学校区を皮切りに、全部で8回の地域説明会を開催した。各中学校区の地域説明会の参加者から出た意見や質問について、特に意見の多かったものを中心に簡単に報告させてもらう。会議録については、現在作業中であるが、ボリュームがかなりあるため、少し時間をいただき、準備ができたものから順にホームページで公開させてもらう予定としている。参加申込人数は、保護者169人、地域95人、合計264人の参加をいただいた。全体を通して多かった意見を紹介する。

全体を通して多かった意見としては、「学校の再編によって、教育の質が向上する、教育環境が充実するとあるが具体的にはどうなるのか」、といったものや、「子どもの通学距離が延びることによる通学方法のこと」、「通学バスのこと」、「子どもの教育環境が変わることへの不安」など、様々なご意見をいただいた。特に、保護者からは、「再編後の学校の災害時の危機管理体制は、どうなっているのか」、「学校が遠くなることに伴う通学について、通学路の不安や、安全性が確保されるのか、通学バスの運行方法やバスの便数はどうなるのか」、「小学校の徒歩通学の3kmは遠い、特に低学年の児童には無理があるのでは」といった、子ども

の安全安心に係る質問や意見が多くあった。地域の方などからは、「学校が無くなることで地域の衰退が加速してしまう」、「廃校後の跡地はどうなるのか」、「小規模校ではダメなのか」といった、教育論的なこと、合意形成などの意見等が多かった。

各地域説明会の参加者からの主な意見として、

(1) 八浜、山田中学区では、

参加者の中には学校再編に若干賛成の方もいたが、全体的には再編に反対の立場で、学校を残してほしいとの意見が多くあった。例えば、八浜では、「東児中と山田中の統合と、八浜中の統合に関して、統廃合した学校よりも多い八浜中を、なぜ今すぐ統廃合しないといけないのか」、「生徒数もこれからの出生数も上回っている八浜中が廃校で、東児中が残るのか。」といったもの、学校が遠くなることに関して、「ぎりぎりで登校してる子がたくさんいて、親が手を引いて行っている子、登校班から外れている子など、親もほぼ共働きで、車が1台しかなかったりする家もあるが、どうやって連れて行くのか。」「通学バスの運転手は確保できているのか。」「八浜駅があるから宇野には電車で行ける。子どもが支援学級に在籍しているので、八浜中に支援学級がなかった場合、もし行くなら荘内中ではなく宇野中になると思う」といったもの、「少人数の方が合う子どもたちのことを考えていないのか。そういった学校を残すという考えはないのか。」「災害時には荘内中まで歩いて迎えに行くのか。シミュレーションはしていないのか。」山田では、例えば東児中にいった場合、「東児中のほうで通級とかもあるのか。」「荘内中に行かないといけないのか」、「合併すればそこに通級ができるのか。」「答申では2 km以内が徒歩通学なのに、素案では3キロ以内になっているのはなぜか。子どもたちは少しの距離でもランドセルのせいで歩くのがしんどそうなのに、これが3 km以内の子どもたちは、重いランドセル、学校で必要な荷物を毎日背負って歩かないといけない。今は昔と違って炎天下や大雨の中を身体的に安全に歩いて行けるとは思えない。統合後2キロ以内とか、必ず縮めて考えてほしい。」

「学校というのは地域の中心でもあるので、もっと地域と学校というものを考えてもらいたい」、「今回の統合計画は、立ち止まってもう一度考え直してほしい。なぜ小規模校がいけないのか、特に複式がいけないのか」、「耐震的な面で見れば山田小学校がいいのではないかと思うが、なぜ胸上小学校なのか。」

(2) 玉、日比中学区では、

計画の進め方、今後について、特に指定学校変更の時期について、小学校6年生の児童の保護者から、「中学校3年生で受験の年に再編となることを踏まえて、計画（素案）の段階で判断を求

めるのか、締切りを延ばせないか」と言った意見が多くあった。日比中学校区では、参加された保護者から賛成の発言もあったが、例えば、玉地区では、「決定するのは3月というなかで、統合時期が変更になるかどうかともわからない。3年後に玉中が宇野中になるとはわからない。決定ではない中で、今小6で、来年宇野中に行かせるか玉中に行かせるか悩んでいる。11月8日までに手続きをするという締切りがあるのはいかなものか」といった意見があった。また、遠距離通学になるなかでの通学路の不安、道路の改修状況、小学校の徒歩通学3kmの距離の見直し、通学中に事故があった場合にだれが責任をとるのかといった質問があった。「統合したら教育環境は良くなるのか」、「一定規模があればどういうふうに良くなるのか」といった意見もあった。

(3) 宇野、荘内、東兎中学区は、
全体的に他地区の会場と比べて参加者は少数であった。特に、荘内地区では、参加者が5名という状況で、宇野、東兎地区も参加者は十数名であったが、例えば、宇野では、「築港小と保育園に子どもがいるが、保護者の方の意見や反応を時々聞くことがあるが、おおむね反対の声は聞かないのが印象的だ。」といったものや、「どうやって教育の質を向上させるのか。」「教員の配置にしても、35人のクラスに教員がひとりの配置と20人のクラスに一人の配置では、教育の質が向上するのか。」「残せる学校はできるだけ残してあげた方がいい。」「中学校については全市同じ学区にして行きたいところにいけるようにしてはどうか。」「廃校になった学校の解体計画や、再利用をどのように考えているのか。」また東兎地区では、鉾立側からは「全ての児童をバス通学にしてもらいたい、胸上小に行くのに峠を通るが道が狭く、そこは自転車で中学生が行くことを考えると、そこを歩いて小学生が胸上側に越していくのは問題あると思う。」「鉾立地区は今まで開発してない地区なんでもっと力を入れてほしい。」「教育の質を向上するために統廃合を進めるという話だが、教育の質とは何か。」荘内地区は、参加者は少なかったが、八浜地区で育った方が来ており、「母校が無くなるのは寂しいので残して欲しいこと」、「義務教育学校について考えていないのか」という意見や、他にも小規模で、学区が大きくないからの学校の良さ、先生も子どもたちに目が届き、いじめなど何かあった場合でも歩いて家庭訪問に行けるなど対応のしやすさがあるなどの意見があった。

(三宅委員) 反対意見の方が多かったという説明であったが、賛成意見の方も若干いたようである。賛成意見の内容はどのようなものであったか。

- (教育総務課長) その場で発言された方もいたが、その場の雰囲気ですぐに発言することができず、終わった後にこちらに賛成意見を伝えにきてくれた方も複数いた。内容としては早く進めてもらいたいとか、他の保護者も賛成している人がたくさんいるので、是非進めてもらいたいなどの発言があった。
- (横山委員) 統合することによって、教育の質が向上するのか、どう変わるのか具体的な内容を教えてほしいという質問があったと思うが、それに対してどのように回答したのか。
- (学校教育課長) 教育の質についての質問は多かった。まずは、児童生徒数が増えることで、多様な他者と関わる中で、様々な価値観や考え方に触れることで、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力をしっかりと育成していく。教育活動も、様々な意見を交わしながら、グループ活動や、ペア学習で、考え方を学びあう、協働的な学びを進めることができる。児童生徒数が増えることで学級数が増える。それにより、教職員数が増える。望ましいのは、小学校は1学年2学級、中学校は1学年3学級であるが、なかなかすべての学校がそのような学級数にはならない。けれども、複数学級が実現すると、クラス替えができるようになる。子どもたちにとっても人間関係でつまづいた時にもリセットできるようになる。また、1学級でも増えることにより、その学校の教職員の数が増える。教員も互いに研究、研修することができ、資質向上にもつながる。学校の支援体制も充実するため、学校の教育力の向上につながるというような内容の説明をした。
- (横山委員) 統合後の具体的なイメージがなかなか形成しがたい中で、話が進んでいき、判断しなければいけない状況である。できるだけ噛み砕いて具体的な説明が必要である。我々も視察を行う中で、協働的な学びや、令和の日本型教育で、教育の中身が変わってきていることを実感するところである。こういったことを考えているということが統合後にもイメージしやすいように伝えていくことが重要だと思う。
- (二宮委員) 保護者からは、通学に関する心配の意見が多かったと思う。距離だけでなく、地域によるが峠の有無や通学路の安全性といったところは見ていかなければいけないと思う。

(2) 玉野市立体育施設の利用料金について

非公開事項のため、会議録は公表しない。

次回、教育委員会定例会は令和6年11月20日(水)14:00から開催するので参集願う。
以上で、令和6年第15回教育委員会を閉会する。

会議録調整者 書記 清山 智保

会議録署名委員 教育長 多田 一也

教育長職務代理者 二宮 崇